

ド
コ
モ
本
部

ドコモ本部

〒107-0052
東京都港区赤坂2-4-5
国際赤坂ビル19F
☎03-3582-9381
☎03-5114-5444

7面には、情報労連「沖繩ピースすてーじ」に参加した組合員の声を紹介しています。

団結の力で 砂漠を緑化 取り組みを「つなげる」

『砂漠を緑に！』第16次隊の活動報告

ドコモ本部独自の社会貢献活動である『砂漠を緑に！』第16次隊18人が、6月18～24日に中国の内モンゴル自治区にあるホルチン砂漠で緑化活動等を行なった。本号では、その活動内容を報告する。



初日の視察では、かつては緑が広がっていた土地が、砂漠化している現状を確認した。その後、第10次隊・第12次隊、データ本部隊が植林した場所を回り、植林した松の木が今後も成長するための剪定活動を行なった。

2日目以降、本格的に砂漠での緑化活動を開始。第15次隊の隣接地を第16次隊の活動場所とし、暑く乾燥し厳しい環境ではあったが、一致団結して650本の松の苗木を植え、水やりのためのバケツリレーを行なった。活動場所には、団結と活動の証である第16次隊の石碑を建て、隊員全員の名前と活動を次に「つなげる」メッセージを刻んだ。交流事業の一環として現地の大学

生6人と2日間、活動を共にし、バケツリレーでは日本語・中国語・モンゴル語で「(みんな)がんばれ！」の声を砂漠中に響かせた。お互い積極的にコミュニケーションを取り、国を越えて1つのチームとなっていた。

最終日、ロールプレイング形式のディスカッションを行ない、「もし、砂漠の村の村長選挙へ立候補したら、どのような政策を考え実行するか」をテーマに議論し、各隊員からさまざまなアイデアと、砂漠化の実態と課題に対する意見を出し合い、今後の取り組みについて学んだ。

次に、「ドコモグループの組合員として、どのような活動が必要か」というテーマでは、「社会貢献は、継続した活動が求められる」「活動を伝え続ける人をつくるのが重要」「国に関係なく『つながる』ことが大事」——等、活動から学んだ教訓をお互いに共有した。

今後、第16次隊の18人は、今回の活動内容等をさまざまな機会を通じて組合員の皆さんへ発信し共有していく。本活動は、組合員からの物品購入や苗木カンパによる支援で行なっており、引き続き、今後の取り組みへのご協力をお願いする。



前号に掲載した「東日本大震災の復興支援および風化に抗する取り組み」(6.3～5)の参加者の感想と、その中で行なわれたワンダーファームの元木寛代表取締役とファーム白石の白石長利さんの講話を紹介しています(7面)。



砂漠化の現状を確認



全員で協力してバケツリレー



これからにつながる大きな経験

北陸総分会 齊藤冬樹さん

「中国の歴史を学ぶ」「砂漠化の現状を知り体感」「中国の人々と交流」——3つの大きな経験ができました。活動のテーマに「つなげる」を掲げていましたが、今回経験したことは次の隊へ、さらに自分のこれからの「つなげて」いかなければなりません。ここからが本当のスタートです。



松の木の手入れも行なった



ひとまわり大きくなったこと確信

九州総分会 植村美幸さん

普段の生活の中で、これだけ大声を出し、体を動かし、協力し合うことはありませんでした。仲間で力を合わせやり遂げたことで、自分がひとまわり大きくなったと確信しています。第16次隊は強い絆で「つなげる」ことができました。たくさんの人に活動を伝え、もっと先へ「つなげて」いきます。



体験をふまえ今後の活動を議論



My Photo Album

Vol.243

皆が参加できる野球



野球好きの身体障がい者のチームに参加しています。障がいの部位や重度はさまざまですが、多くの方が参加できるように独自のルールを設けています。例えば、脚に障がいがある人が打席に立つ時は、走れる人が代わりに走ります。まさに「代走」です。

障がい者野球では「ボールを転がして走れば何かが起こる」がバッティングの基本。私は「走り」を期待されており、走力UPが課題です。

東海総分会 井原 剛さん

赤坂点描

先月、ドコモ本部独自の社会貢献活動二つが行なわれた▼私は過去に「砂漠を緑に！」第16次隊として、仲間と共に緑化作業に汗を流し、活動を通じ「身近なところからできることを自らが楽しんで行なう。そして、楽しかったことを身近な人に伝える」、それが活動を継続させる要素であり、その結果が成果につながることを学んだ▼「砂漠を緑に！」と「東日本大震災の復興支援および風化に抗する取り組み」に参加した組合員の皆さんが、これから「実感して語る」ことで、両活動のさらなる継続につながることを期待したい。(だーす)